

未来まちづくりニュース

2020年3月7日発行
柏ビレジ自治会
未来まちづくり部
活性化プロジェクト

2



柏ビレジの最寄り駅、つくばエクスプレス「柏たなか駅」までの交通アクセスが実現に向け一歩前進しました。

TOPICS

- 会長メッセージ
- 柏ビレジ商店会レポート
- 朝の見守り活動
- 柏ビレジの交通対策
- ネットスーパーによる買物支援
- 地域活性化活動の参考事例
- 未来まちづくり協議会 情報～空き家対策

■ 会長メッセージ～2019年度の活動を振り返って

会長 シュビンドラー 千恵子



柏ビレジが誕生して40年余、柏の葉キャンパス周辺を代表とするビレジ近隣の町の発展や、私たち住民の生活スタイルやニーズなど、40年前とは比べものにならないほど環境が変化してきました。老いも若きも子供も外国人も、多様な人々にとって住みやすいまちを持続し、さらに魅力的なまちにリ・プロデュース(再生する)するために、未来まちづくり部を新設、当部の活性化プロジェクトではさまざまな取り組みを行っています。何と言っても今年が目玉である本格的に始まったまちづくりルール(建築協定)

の見直し活動のほか、さまざまな活動をして参りました。商店会活性化のための共通利用券の発行においては、多くの方々のご支援をいただき完遂することができました。交通対策では柏ビレジから柏たなか駅までの交通アクセスの実現に向け、具体的に柏市と協議を始めました。朝の見守り活動では、来期からボランティア要員を増やすことができました。柏ビレジ調整池(水辺公園池)の水質改善対策では、柏市と協議し方針合意に至りました。まだまだやりたいことは多くありますが、少しずつ具現化してきています。この10ヵ月間、目が回る忙しさでしたが、皆様のご理解とご支援をいただきながら乗り切ることができましたことに、心より感謝いたします。2020年度もどうぞ期待ください。

■ 柏ビレジ商店会レポート～柏ビレジ商店会共通利用券のプログラムを終えて

便利な街づくり

取材/未来まちづくり部: 刑部 修・大野達雄



今回、ご協力いただいた商店会の沢辺会長

柏ビレジ自治会が初めて実施した「柏ビレジ商店会共通利用券」のプログラムは、おかげさまで、住民の皆さんに計4,441枚もの利用券をお買い求めいただくなど、3ヵ月間の利用期間を経て2月14日(金)、無事終えることができました。今回、多大なご協力をいただいた「光フルーツ」の沢辺成一会長に、参加にご協力いただいた柏ビレジ商店会を代表して、プログラムを振り返っていただきました。「7店舗が参加して行われた今回のプログラムは、商店街の活性化に一定の効果があった。再度、実施することには賛同するものの、使用された利用券の多くは、八百屋、コンビニ、パン屋など物販店が中心であった。そのため商店会の組合費から各店舗一律に負担して参加する今回のやり方に対しては、今後、見直しが必要になるかもしれない。」とのご指摘をいただきました。また、実施方法についても、初の試みで試行錯誤の連続だったとはいえ、支部長、班長、事務局、活性化プロジェクトメンバーなど自治会関係者を中心に大きな負担を与える結果となりました。未来まちづくり部ではこのような反省点も踏まえ、柏ビレジ商店街の継続的な活性化に向け、商店会と引き続き検討していきます。

■ 朝の見守り活動～子ども達からの元気をパワーに

安心な街づくり

施策担当リーダー 村上伸二



花野井小学校で開催された朝の見守り活動 感謝の会

この活動を始めて2年経ちました。“子ども達を見守っている”というより“子ども達から元気をもらっている”というのが活動を通じた率直な感想です。会話を楽しみながら登校する子ども達の笑顔はとても微笑ましいです。「頑張って」と声をかけてくれる子ども達もいます。赤信号に変わりかけの交差点を高速で通過する車にははっとさせられましたが、落ち着いて行動する子ども達がほっとさせてくれました。そんな子ども達が2月4日に感謝の会を開いてくれました。写真はその時に参加したメンバーです。今年度は次の方々のご協力をいただきました(敬称略)。

佐々木裕久、高橋克彦、野村芳守、森克彦、山本伸一(以上 柏ビレジテニスクラブ)、石川由紀子、臼井智美(以上 子ども会)、中村繁夫、森美智子(以上 新樹会)、小川喜成、加藤正俊、砂川高志、百本隆一、芳之内莊平(以上 自治会OB)、岡島良卓(以上 有志)、大野達雄、宮崎泰雄、村上伸二(以上 活性化プロジェクト)。1年間ありがとうございました。次年度も引き続きご協力いただける方は改めてよろしくお願いたします。この活動は交代制で継続したいと考えています。1ヶ月に1・2回(約30分)の活動をお手伝いいただける方は、是非お声がけください。

■ 柏ビレジの交通対策～柏たなか駅までの交通アクセス実現に一步前進!

便利な街づくり



住宅や公園など周辺の開発が急ピッチで進むつくばエクスプレス「柏たなか駅」

交通担当/シュビンドラー千恵子・刑部 修・大野達雄

創刊号に引き続き、その後の柏ビレジの交通対策の進捗状況についてご報告します。本年2月上旬、柏ビレジの交通対策全般について、柏市交通政策課と協議する機会がありましたので、そのご報告をさせていただきます。今回の協議では、既に提示済みの「公共交通バス」ルートの変更案や新設案とともに、「オンデマンド交通」や「コミュニティバス」という新たな交通手段に関する課題や実施案などについて、企画案の説明の後、率直な話し合いを行いました。

■ 高齢化に伴う交通利便性の低下

柏市は、千葉県内の他都市と比べ民間の路線バスが市内全域をカバーするなど充実している一方、最寄りのバス停から300m以上離れているエリアがあります。いわゆる「公共交通空白地域」ですが、柏ビレジの一部地域を含め、市内には沼南地区を含め10数カ所存在しており、高齢化の進展とともに、路線バスの利用に不便を感じる住民が年々増加する傾向にあります。そこで、柏ビレジ自治会・未来まちづくり部では、路線バスを補完する目的で、より住宅に近いエリアを周るとともに、最寄り駅である柏たなか駅までの交通アクセスを実現する方向で、住民の利便性を考慮したプランを検討・策定しました。

■ 柏ビレジの交通対策

その一つが創刊号でご紹介した「オンデマンド交通(相乗りタクシー)」です。これは、柏ビレジを中心に半径5km圏の運行エリア(例:病院、駅、銀行など)を設定し、予約制、相乗りを前提に、距離ごとに割安の定額運賃で運行する交通サービスです。もう一つの手段が、柏ビレジ独自の「コミュニティバス」の導入です。現時点の最優先プランは、柏ビレジ～柏たなか駅間を循環するルートであり、定時定路線型として決まった時刻に決まったルートを運行する形態を予定しています。車両タイプは狭隘道路での走行も前提に、利用人数や資金などにより、ワゴン車(9名乗り)、マイクロバス(11～29名乗り)、小型バス(35名乗り)のいずれかを想定しています。

■ 柏たなか駅までの交通アクセスと今後の取り組み

今回の当企画提案に対し、柏市交通政策課からは、「交通対策を地域の住民である自治会が主体で取り組むことを前提に、今後、柏市としてもできる限り応援していきたい。したがって、柏ビレジは、柏たなか駅までの交通アクセスの実現に向けての取り組みをそのまま進めてほしい」とのことでした。

今後は、市のアドバイスに基づき、住民の交通アクセスに関するニーズ調査を実施する予定です。ニーズ調査とは柏たなか駅までの交通アクセスが実現した場合、どのような交通手段で、どれだけの人が、どのように使うことを希望しているか、などについての住民アンケート基礎調査です。また、柏ビレジ全体の交通対策について、2020年度中の早い時期に住民に説明させていただく予定です。待望の柏たなか駅までの交通アクセスの実現に向け、住民の皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。最後に、本件ご支援いただいております桜田柏市市議に感謝申し上げます。

■ ネットスーパーによる買物支援～日常の買物に不便さを感じているシニアの皆様へ

便利な街づくり

メンバー/高柳キミエ(施策担当ライター)・立林紀世子・三石紀子・松尾貴子



創刊号では、ネットスーパーによる買物支援に取り組むきっかけと新樹会会員を対象にネットスーパーのアンケート調査を実施し、60%以上の方々から「講習会があれば参加したい」との回答をいただいた話をご紹介しました。その後、私たちは、ネットによる買物を支援するための講習会を開くことを目標に、まずはパソコンとスマホ利用者向けの詳細な仕様説明書案を作成しました。そして、それをもとに講習会を開くことを検討しましたが、既にユーザーとしての利用経験があるものの、ネットスーパーという特殊な分野であるため、「実際のネットスーパーの専門家に説明いただくのが効果的」と考えました。

そこで、ネットスーパーの担当者にコンタクトし、双方から2名ずつ出席して初の会合を実施。その結果、上記説明書案を参考に、専門家の立場から初心者に分かりやすいオペレーション・ガイドを作成していただくことになりました。「ネットスーパーの専門家による柏ビレジ初の講習会」の開催が、買物に出かける不便さを少しでも解消したいと願うシニアの皆さんにお役に立てばと考えています。実現に向け、現在、重要なガイドの作成を双方の協力により作成中です。開催まで、今しばらくお待ちください。

未来まちづくり部 / 刑部 修・大野達雄

昨年7月、野田市の岩名一丁目町内会関係役員の皆さんが柏ビレジ自治会館を訪れ、自治会活動を含む柏ビレジの活性化活動全般について情報交換する機会がありました。きっかけは、町内会が抱える各種課題への対応策を検討していた段階で、柏ビレジが「第14回住まいのまちなみコンクールで国土交通大臣賞を受賞」(日経)の記事をご覧になったことでした。町内会では、それに刺激を受け、早速『街づくり検討小委員会』を発足。それに関連して「柏ビレジ自治会の組織や体制、関連ボランティア団体とその具体的な取り組み状況」を知るために来村されたものです。地域の活性化に大変熱心に取り組まれている町内会(=自治会)ですので、地域活性化の参考事例としてご紹介します。



岩名一丁目の美しい景観
(※Google ストリートビューより)

●**岩名一丁目町内会** 岩名一丁目は東武アーバンパークライン川間駅の南側に位置し、1978年から東武鉄道が主体となり開発分譲された緑豊かな「ニュータウン」です。多くの住人は、1980年代初にこの地に移り住んだ都心に勤めるサラリーマンとその家族というように、街の生い立ちや住人の属性は、柏ビレジと歴史や規模を含めて共通点が多いようです。岩名一丁目町内会は、会員数850世帯で構成する自治組織(※岩名一丁目の総戸数は1,200戸)です。町内会は会長をはじめとする役員17名で組織され、配下に広報、体育、福祉、環境衛生、交通防犯、防災、文化、募金、会計の9部を置き、更に夏祭りなど特任役員が担っています。



岩名一丁目町内会
飯野友二 会長

- 岩名一丁目町内会に学ぶ** 柏ビレジ住民の視点から見た特徴的な取り組みを(一部ですが)採り上げてみました。
- ホームページが充実**: コンテンツが非常に充実。更新が頻繁に行われている。何時でも、誰でも「町内会からのお知らせ、各種行事の結果報告、町内会館の予約状況」など閲覧できるサービスを提供。(※HPは「岩名一丁目町内会」で検索でき、活動の様子が良くわかります。)
- 住民のITスキル強化を支援**: 「老いてこそIT活用を」という意図で、スマホやタブレット、PC初心者への無料勉強会を実施。身近で発生した「空き巣、振り込め詐欺」など緊急お知らせ情報のメールニュースも発信。
- 住民の健康増進に熱心**: 1994年にスタートした町内会独自に開催している恒例の江戸川堤での「歩け歩け大会」。約500人の町内会参加者は、2km、4km、6kmの3コースから老若男女夫々の体力に合ったコースを選び、ウォーキングを楽しむ健康増進プログラム。
- 制限速度制限地区「ゾーン30」の導入**: 町内生活道路での事故防止を図る取り組み。指定されたゾーン内道路では車の最高速度を時速30km以下に規制され、通過車両の侵入を防ぐ効果もある。
- 実践的な防災訓練**: 起震車を使った地震体験や車椅子を使った避難訓練、AEDを使った救命やフライパンの油による発火事故に対する消火訓練など実践的な訓練を実施。
- 活発な老人クラブ「リフレッシュクラブ」**: 町内の60歳以上の方々、175名の会員で活動する老人会。リフレッシュクラブは、「明るく、楽しく、元気に、生き活きと」をモットーに、健康で遣り甲斐のある(やること、行くところがある)生活、相談できる身近な友人がいる生活の場づくりを目指し、活発に活動。(※柏ビレジの「新樹会」も頑張っています)



スマホ・タブレット勉強会で
熱心に学ぶ皆さん



岩名一丁目町内会恒例の
「歩け歩け大会」



多数のシニアが活発に活動する
リフレッシュクラブ

●**町内会の課題** 分譲後約40年の時を経た現在は住民の高齢化が進み、高齢化率は約47%(※2017年)に達し、柏ビレジの約44%(※同年)を若干上回っています。世帯数850戸(※1丁目の総戸数は1,200戸)の加入率が71%(※柏ビレジの総世帯数は約1,580戸、加入率99%)と、住民の高齢化や役員の負担増などにより退会者が増加。また、次世代を担うべき若い新規居住者にあっては共稼ぎの常態化の影響で、昨今は「町内会の活動の担い手不足」が「高齢化」とともに課題となっています。なお、柏ビレジの大きな課題の一つ「交通問題」に関しては、「最寄り駅まで歩ける距離であることや、電車も上り下りとも10分間隔で運転されていたり、市役所や大きい病院などへは、市のコミュニティバス(まめバス/定員25人乗り)などが利用できるため、特に問題はない」とのことです。

町内会では、高齢化の進展に伴い「ゴミ出しや買い物など日常生活支援、庭木や生垣の手入れなど住環境の維持、健康対策、引きこもり防止」など、新たなサービスニーズが生まれており、これまで永年続けてきた「町内会の行事など活動内容や運営方式」の抜本的な見直しの必要に迫られています。こうした課題を解決するため、町内会活動における各部や主要行事など、資源の再配分や担い手確保のための仕組みを含めた改革案が検討されています。

●**柏ビレジについて** 今回の訪問により、特に柏ビレジの「意思決定をされる役員の方々」が1年交代、「主要な実務サービスは関連ボランティアが担う」という運営体制を知り大変驚くとともに、「はなみずき」で活動されるボランティアの方々の生き活きとした笑顔を知ったことは、我々、岩名一丁目町内会の課題である担い手不足(=役員負担の軽減:退会者の主な理由の一つに役員負担がある)解決を進める上で、大いに参考になりました。コミュニティルーム「はなみずき」の運営や高齢者に対する支援サービスなど関連ボランティア団体が担うサービス実務ノウハウの伝授など、今後とも、引き続きご協力をお願いします。

※当コーナーの記事及び写真掲載にあたり、岩名一丁目町内会の飯野友二 会長、小森芳夫 副会長、リフレッシュクラブ 斉藤邦雄 会長、文化部 川島重雄 理事の皆様にご協力をいただきました。あらためてお礼申し上げます。

未来まちづくり協議会 情報

取材／未来まちづくり部：刑部 修・大野達雄

柏ビレジの環境維持活動：ビレジサポートによる空き家対策



柏ビレジの緑のまちなみを守るビレジサポート「剪定団」の皆さん

創刊号では、目的を共有する柏ビレジ自治会傘下及び関連諸団体の意見を調整し、総意を形成する機関として2018年1月に設立された「未来まちづくり協議会」の概要をご紹介しました。当会は柏ビレジの未来のまちづくりに向けた取り組みを考える協議会として筑波大学の助言・支援を受けて活動しています。今号では、協議会の構成団体の一つであるNPO法人ビレジサポート(以下VS)を取り上げてみました。

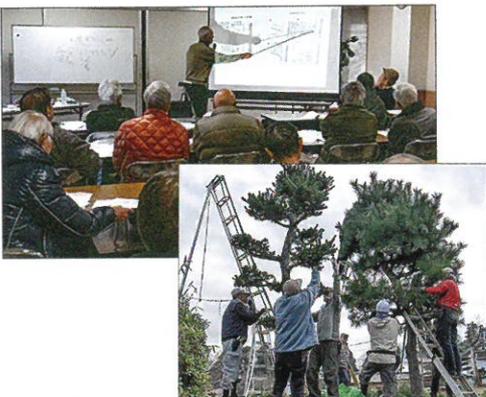
■**ビレジサポートの組織体制**：2013年から本格的な活動を開始したVSは、主に、水遣り、雑草取り、ゴミ出しなどの「助け合い活動部」の他、剪定作業を中心に地域の環境保全・景観維持活動を行う「剪定サービス部」、柏ビレジ内の緑道の清掃や柏の葉キャンパス地区中心に受託業務を担う「事業開発部」、通いの場を運営する「IVY-LABO」から成り、80名のメンバーが日々活動しています。こうした地道な活動が評価され、今では柏市の住民互助組織としては先駆的な存在として、また、高齢化が進む柏ビレジ住民と柏ビレジの街並み維持には欠かせない存在となりました。

■**柏ビレジの課題～空き家対策**：さて、柏ビレジの環境面での課題の一つに、雑草や樹々が繁茂する空き家の美観維持の問題があります。VSの剪定サービス部ではその課題解決のため家主の了解の下、手入れの行き届かなくなった庭などの剪定・除草作業を行い、柏ビレジ全体の美観維持に貢献しています。空き家は、繁茂による景観の悪化以外に、老朽化による家屋の倒壊、犯罪や放火などのリスクもあるため、地域にマイナスの影響を及ぼすと言われています。2018年に自治会および未来まちづくり協議会、筑波大学が合同で実施した住民アンケートの調査結果でも、「将来について気になる点」として、「将来、空き家が増える(かもしれない)」が第1位にランクされるなど、空き家増加に対する懸念が非常に高いことが示されました。



庭などの剪定・除草作業に汗を流すメンバー

■**空き家剪定サービスと今後の課題**：VSによる空き家の剪定サービスは、スタート時期に「家を空けているため、近隣に迷惑をおかけしているのでは？」とのお客様からの要望により空き家の剪定作業に取り組んだのがきっかけでした。現在、同部では25名のメンバーが活動していますが、実際の作業で大変なのは、やはり暑い夏場。シニア世代が中心のため、健康管理の観点から、午前中2時間半程度で完了するよう5名～10名のチームに分かれ、作業を行っています。近い将来、剪定サービス部が危惧しているのは、メンバーの高齢化に伴う担い手不足の問題。同業者も担い手不足などで廃業するケースも多い中、継続的な剪定サービスを維持していく上で、担い手の確保を今後の優先課題として捉えています。



真剣な表情で剪定技術の習得に励む剪定サービス部の仲間たち

■**お客様の声**：こうしたVSによる剪定サービスに対して、利用者であるお客様からは、一般的な剪定業者に比べて「料金が安い」との声を多くいただくとのこと。また、メンバーを対象に剪定技術のステップアップ講習会などを複数回実施していることで、初期の頃に比べてメンバーの剪定スキルも上達。お客様からも「以前より丁寧なうえに剪定が上達した」という声も多くいただくようになりました。また、剪定・除草作業以外には、2019年の台風15号、19号が関東地方に上陸した際に、その影響による倒木やフェンスの破損状況など庭の木々の様子などを所有者に連絡したところ大変喜ばれたとのこと。こうした活動の結果、2019年の剪定作業件数は計160件、6年間の活動でお客様が250軒を超えました。いわば、柏ビレジの6軒に1軒がVS剪定団のお世話になっている計算になります。

■**柏ビレジにおける空き家対策への取り組み**：なお、今回初の試みとして、柏ビレジ自治会は、空き家の美観維持の観点から柏ビレジ建築協定運営委員会が、遠隔地に住む「空き家」所有者に対して、2019年度の総会前に発送するレターに、VSの「庭木剪定のご要望を承る」旨のPRチラシを入れることをお願いしました。柏ビレジにおける空き家問題は、柏ビレジ全体で取り組むべき重要な課題ですので、今後、自治会、建築協定運営委員会、環境部、VSなど、関係組織・団体が集まり、個人情報扱いなどを含め、率直な話し合いの場を通して、私たちの資産でもある美しい柏ビレジの景観や環境を維持していくことが求められています。



今回、取材にご協力いただいたVSの皆さん
(写真：左から 三由真延さん・森下弘祥さん・
理事長の戸谷文治さん・佐藤宗弘さん)